

---

# 違う高校生

関川雷牙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

違う高校生

### 【Nコード】

N8327T

### 【作者名】

関川雷牙

### 【あらすじ】

東雲高校に入学して五か月が経った。

未だ学校に馴染めない成家翔<sup>なるかしょう</sup>。

平凡でヒマな高校生活を送っていた。

だが、その高校に入った時から人とは違う人生を歩む事が決まってしまった。痛みから生まれる喧嘩術。

Sっ気喧嘩高校生の非日常的日常の開幕！！

## 初めての痛み（前書き）

喧嘩を題材にしているので、そういうのが苦手な方はお気を付けください！

そこまでひどくはないと思いますが。

初めてのモノなので、至らないところもあるかも知れませんが、よろしく願います！

## 初めての痛み

都市部から外れた高校。

東雲 《とううん》高校。偏差値はあまり高くない。チャライ奴らが多く集まる。

入学してから早五カ月。

未だクラスに馴染めていない俺。成家翔<sup>なるかしろう</sup>。無口で人と絡まない。めんどくさがりで短気。口より手が先に出る。性格はSっ気。

周囲からは「怖い。」との事。

目つきも悪いらしく、人が寄って来ない。

毎日がヒマで仕方がない。部活はやっているが、柔道部。

怖さの原因の一つだろう。間違はなく。

その柔道部も俺と三年の平先輩<sup>たいら</sup>のみ。廃部街道をこれぞと言わんばかりに突っ切っている。

どちらも白帯で、実力差がほとんど無い。素人が見ても明らか程だ。

俺は今部活の真っただ中にこんな事を考えている。格闘場でやっている。広さは25mプール一つはいるくらいだ。顧問の先生がなかなか来ないので、ヒマをつぶすか……。

「先輩い……ヒマなんで勝負しません？」

面倒だがヒマよりはマシだ。

「良いよ。何にする？」

「そつすねえ・・・ジャンケンでも？」

「えっ!？」

「やっぱり驚いたか。見てて面白い。」

「嘘つすよ。」

先輩は安心した様で息を大きく吐いた。

「せっかくだから部活らしい事しましょか。」

「うん。その方が時間を無駄にしないで済むね！」

「じゃあ、スクワット勝負で。」

「何回にする？」

俺の悪戯心が揺れ動く。

「持久力勝負にしましょう。できなくなるまでやるの。」

先輩は困った表情を浮かべたが、すぐに言った。

「よし！始めよう！」

始まってから二十分が経った。

先輩の方をふと見てみた。・・・膝が笑ってるじゃん。面白れえなあ・・・。見てて。

「ハア・・・ハア・・・。す・・・すごいね・・・。」

「あれえ・・・？先輩、もうバテてるんですかあ？」

「うう・・・。」

先輩に体力が無いのは承知の上だ。わざとこつこつ勝負にしてんだから。面白いし。

「あれ・・・？・・・ハア・・・。」

「どうかしました？」

「お客さんかな・・・？」

扉の前に見知らぬ男が立っている。

俺は戸を開けた。

「なんすかあ？」

言葉を発したかどうかぐらいのタイミングで、顔面に前蹴りが飛んできた。

急な出来事と感じた事の無い痛みで、記憶が飛んだ。

## 初めての痛み（後書き）

この小説は自分の高校生活を大幅ポリリユームアップした様な感じなんです。

喧嘩なんてしたら停学喰らいますけどね。

今、自分の高校生活は二年目を迎えて充実してますが、自分のやりたくてもできなかつた事をこの場でさらけ出そうという感じですよ。温かい目で見えてやってくださいな。

## 痛みの記憶（前書き）

部活中の突然の来客に、応答する翔。

戸を開けた途端に、思いもよらない攻撃。

その瞬間、記憶が飛んでしまった・・・。



## 痛みの記憶

熱い。じわじわとくる熱さ。顔が焼けているようだ……。

後頭部からの激痛で目を覚ました。

「痛え!!何だぁ……!?!」

顔の中心が痛い。痛いと言うよりも、熱い。顔に広がる灼熱。耐えられない痛み。

「顔に何か付いてる……?」

顔に触れると、確かに液状の何かが大量に付いているのがわかる。

「何だよ!!コレはぁ?!」

それは赤かった。血だ。顔を覆っていた液状の物。それは、紛れもない翔の鼻から溢れ出た血だった。

視界に入るのは、

「天井……?」

どうやら寝ていたようだ。仰向けになって……。

身体を起こして辺りを見回す。

まず、最初に目につくのが見知らぬ男だ。身長は190……200cm? 明らかに俺との慎重さが30cmはある。スキンヘッド。筋骨隆々という言葉が当てはまる。垂れ下がったその腕は岩のような拳。握り固めた時の破壊力は想像できない。

男は入り口付近に立っていた。男との距離は5m程か。その足元には、

「先輩!？」

うつ伏せになった先輩がそこにいる。

男と目が合う。初めて口を開いた。

「よお！遅いお目覚めで！ゆっくり眠れましたか？」

その言葉を聞いた瞬間、殴りかかっていた。身長差をものともしなかった。怒りによる内なる力。

人間の神秘。

右の拳が男の左ほほに突っ込んだ。固い。俺の拳の方が砕けそうだ。  
・・・!

「急に何やねんなあ〜？訳わからんねえ、キミは。」

「てめえが先に手え出してきたんだろがア！！なに知らばっくれてんだ！自分でやったこと忘れてんのか！！」

「・・・ああ。ソレか。ココ貰いに来たのに邪魔しててんから、かくひねってやったわ。」

「ココ・・・？」

「この部屋は、うちら空手部が貰うねん。センサーに聞いてへんかな？」

何のことだ・・・？そんな事、顧問はほめかしてもいないぞ？

「それだとしても、入ってくるなりの蹴りはなんだ！！」

「あいさつやがな。格闘技やるもの皆独自のあいさつがあるやろ？」  
そうか。そういう事なら。

男との距離をとった。

間、2 m。

構えた。柔道ではない構え。右足を前に出し、左を後ろ。左手は握るか握らないかの間。ほほと胸につくギリギリ。右手は広げて左よりも前に出す。いつでもモノをつかめる体制。

「やるぞ。」

男は、キョトンとした顔で、

「何をやんねん」

決まっているだろう。

「喧嘩だよ。」

その時、その場の空気が変わった。

痛みの記憶（後書き）

始めて見せる喧嘩。

秘めたる力を開放する。

本番の幕開けだ・・・！！

## 違う力の差（前書き）

初めて感じる喧嘩の痛み。

身体の底から湧きあがる怒りを力に変える。

喧嘩の行方はどうなるのか！

## 違う力の差

短い距離に感じる恐ろしいくらいの膨大な殺気。何人たりとも寄せ付けないようなその殺気は二人の男から感じられる。

両者、間合いを詰める。

射程範囲内……。

「去ねやあつ!!！」

男の右の足刀蹴りが翔の左ほほに当たる。30cmを超える足の甲で蹴られる。

なんとか踏みとどまった。口の中がゴロゴロする。歯が折れているのだ。左ほほに当たっていた手も尋常ではない痛みが響く。

「次やあ!!！」

右の鉄拳が痛めたほほに向かって行く。

咄嗟に相手の右そでを左手で引く。体を回して相手の脇に右腕を差し込む。相手の巨体を腰に乗せて勢いと共に前方になだれ込む。

「この技はアアッ!!!!！」

一本背負い

投げられた相手の巨体に勢いで回転した翔の体が男の上に乗った。

「ぐううう・・・」

あまりの苦しさで唸っているようだ。

「どうだ・・・。初めての柔道の味はよお・・・!!!」  
完全勝利を見据えている。

「臍物が出てきてしまいそうやでえ・・・」  
呼吸が荒れている。仰向けのまま手足が動かないようで、話すのも辛そうだ。

「ここはまだ俺らの場所なんだ。お前みたいなウドの大木にやれっかよ!!!」

眉間にしわを寄せ、限りない力で男に怒鳴った。

「わかった、わかった・・・。もう手え出さんから。」

ガラッ

戸が開いた。

「ど、どうしたんだ!?このありさまは!!!」

顧問の先生が遅れて入ってきた。

「先生・・・。遅いつスよお・・・。ほら、先輩を保健室に連れて行ってください。事情は後で話しますから。」

言葉を発すると共に口の中に転がる歯を吐いた。  
驚きを隠せずにいる先生が言った。

「お前も、保健室に来ないのか？」  
乱れた髪と傷だらけになつた端整な顔で言った。

「もう少し勝利の余韻つてのを楽しみたいんで・・・。」

部室に立つ1人の男。

一般の高校生とは違う雰囲気かそこにはあった。



## 違う力の差（後書き）

「違う高校生」一応完結で。

「違う」「作品を自分なりに書いていきたいと思っています！」  
ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8327t/>

---

違う高校生

2011年10月9日08時10分発行